第三講　単語・重要語句

問1　次の傍線部a・bの解釈として最も適当なものを、後のア～オからそれぞれ一つずつ選べ。

三日、夕さりつかた、～籬のむら竹の上に、愛宕・嵐の山々、<u>にほひやかに</u>[a]横ほれり。…

ア　美しく照りはえて　　イ　香気を漂わせて　　ウ　冷ややかに沈んで

エ　ぼんやりと霞んで　　オ　華やかにさかえて

～ありし（姫君が書いた）御手習ひの、硯の下より出でたるを（兵部卿の宮が）取りて見給ふに、姫君はいと恥ずかしくて顔うち赤めつつ、傍らそむき給ふさま、<u>いとよしよししくにほひやかなり</u>[b]。

ア　実に風情があり、良い香りが漂っている

イ　実に才気にあふれ、魅力的な雰囲気である

ウ　実に上品で、輝くような美しさである

エ　実にものものしく、威厳に満ちた様子である

オ　実に奥ゆかしく、高貴な育ちを感じさせる

問2　「聞きあきらめん」の解釈として最も適当なものを、次の中から一つ選べ。

ア　聞いたうえで断念したい
イ　申し上げてほっとしたい
ウ　聞いてはっきりさせたい
エ　きっぱりと申し上げたい
オ　聞き飽きるほど聞きたい

問3　（光源氏が、最愛の妻である紫の上を亡くし、出家を決心したことを）「いかばかりなりしかば、かばかりの御心ざしならん」と、(注)山伏の御心にも、いとほしくもゆかしうもあたらしくも、さまざまにぞおぼえ給ひける。…

（注）山伏――ここでは朱雀院を指す。光源氏の兄で、すでに出家している。

ア　恋しくも趣のあるようにももったいなくも
イ　望ましくもすばらしくも新鮮にも
ウ　かわいそうにも知りたくも初めて見たようにも
エ　慕わしくも見たいとも残念にも
オ　気の毒にも心ひかれるようにも惜しくも

問４　次の傍線部の解釈として最も適当なものを、後から一つ選べ。

宣旨（せんじ）殿御太刀（たち）持ちて、「これは、いづくへか具しまゐらすべき、按察（あぜち）の三位（さんみ）殿に申せ」と仰せらるれども、…

ア　揃（そろ）えて　　イ　連れて　　ウ　返して

エ　持って　　オ　添えて

問５　次の傍線部の解釈として最も適当なものを、後から一つ選べ。

年のほど十五六ばかりなる姫君のなのめならず美しき、女房たち四五人して濡（ぬ）らさじと立ち隠す。

ア　きわだって美しい姫君

イ　初々しくて美しい姫君

ウ　目立たないが美しい姫君

エ　一見したところ美しい姫君

オ　評判にたがわず美しい姫君

問６ 次の傍線部ａ・ｂの解釈として最も適当なものを、後のア〜オのうちから、それぞれ一つずつ選べ。

（注）寂蓮（じゃくれん）は「ａ歌ほどいみじきことなし。猪（ゐのしし）のむくつけく恐ろしげなるものまで、『枯草（かるも）掻（か）く臥（ふ）す猪（ゐ）の床（とこ）』など詠みぬれば、やさしくなれり」と申しける…

（注）寂蓮——平安時代末期・鎌倉時代初期の有名な歌人、僧侶。

ア　歌ほど容易なものはない　　イ　歌ほど力強いものはない
ウ　歌ほど素晴らしいものはない　　エ　歌ほどやっかいなものはない
オ　歌ほど変わりやすいものはない

次の文章は『栄花物語』の一節である。あまりにも華美であった皇太后藤原妍子（ふじわらのけんし）の年始の大饗（たいきょう）（正月に行われる宴会）を、兄の関白藤原頼通（よりみち）がとがめる場面から始まっている。

関白殿うちに入らせ給（たま）ひて、御前（おまえ）に申させ給ふ。「今日の事、すべていと殊の外にけしからずせさせ給へり。この年ごろ世の中いとかうｂいみじうなりにて侍（はべ）る。…」

ア　目新しげに　　イ　ぜいたくに　　ウ　ひかえめに　　エ　風変わりに　　オ　風雅に

問7 次の傍線部の意味として最も適当なものを、後の中から選べ。

みるめこそあふみの海にかたからめ吹きだに通へ志賀の浦風
と詠みてやりたりけるより、いとど歌おぼえまさりにけり。

ア 歌人としての評判　イ 和歌への理解
ウ 歌詠みとしての自信　エ 歌人として生きる覚悟

問8 「いかでか聞えむ。」の解釈として最も適切なものを、次の中から選べ。

ア なんとかしてお聞きしたいものです。
イ どうやってお聞きすればいいでしょう。
ウ どうしてそのようにお聞きになったのですか。
エ どうしてお話し申し上げることができましょう。
オ どうしてお話し申し上げられないことがありましょう。

問9 次の傍線部を現代語訳せよ。

智恵才覚、芸能言ふばかりなく、世に並びなく聞えありて、とりどりにさいはひ給ふ。

問10　次の文章を読んで、空欄Ⅰに入る語として最も適当なものを後の中から選べ。
（『蜻蛉日記』の作者藤原道綱母は、夫藤原兼家に新しく通う所ができたため、訪れが間遠となっていることに悩んでいる。）

六月になりぬ。ついたちかけて長雨いたうす。見出だして、独り言に、
わが宿の嘆きの下葉（したば）色深く［Ⅰ］にけりながめふるまに
など言ふほどに、七月になりぬ。

ア　うつろひ　　イ　ためらひ　　ウ　かげろひ
エ　やすらひ　　オ　おこなひ

問11　「こころ思ひあつめたまへるつらさも消えぬべし」の意味として、最もふさわしいものを次の中から一つ選べ。

ア　最近　　イ　いちずに　　ウ　心の中で　　エ　たくさん　　オ　このあたりで

問12　「今日は術（ずち）なし。右の大臣にまかせ申す」の傍線部の意味としてもっとも適切なものを、次の中から一つ選べ。

ア　手続きがわからない　　イ　どうしようもない
ウ　名案がない　　エ　異論がない

問13 次の傍線部a「まめなる」・b「おどろおどろしく」・c「こほち」の意味として最も適切なものを、後の中から一つずつ選べ。

[a]まめなる男ども二十人ばかりつかはして、……

ア すばしっこい　イ 体の小さい　ウ 洗練された
エ 忠実な　オ 暇な

麻柱に[b]おどろおどろしく二十人の人ののぼりてはべれば、……

ア 静まりかえって　イ 整然として　ウ 汚らしく
エ みすぼらしく　オ 仰々しく

この麻柱を[c]こほちて、人みな退きて、……

ア 移動させ　イ 建てつけ　ウ 取り壊し
エ 飾りをつけ　オ 色を塗り

問14 「あるじなどし、人々もの食ひて、……」の傍線部の意味として最も適当なものを、次の中から一つ選べ。

ア 饗応　イ 居住　ウ 差配　エ 主人　オ 紹介

問15 「出でがてに」の意味として、最もふさわしいものを次の中から一つ選べ。

ア 月を待って　イ 戸のところで　ウ 帰るついでに
エ いつものように　オ 立ち去りにくそうに

問16 「あるやうこそは」の意味として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア あらかじめ予想していたとおりだ
イ この上なくありがたいことだ
ウ 帝に意味をお尋ねしよう
エ 何かわけでもあるのだろう
オ 帝に事情をお話ししよう

問17　次の傍線部を現代語訳せよ。

ここも許しあるところにあらねば、しばしもたたずみなんは人わろければ、慌ただしくとくまかでぬ。

問18　「長者の家にかしづく女(むすめ)のありけるが、…」の傍線部の現代語訳として最も適切なものを、次の中から一つ選べ。

ア　大切に仕えている　　イ　大切に育てている
ウ　妻として従っている　　エ　下女として使っている

問19　「この僧に対面して、物語し給ひけるが、かたはらの人々に語りていはく、…」の傍線部のここでの意味として最も適切なものを、次の中から一つ選べ。

ア　自作の物語を語られた　　イ　雑談をなさった
ウ　霊験談を尋ねられた　　エ　霊験談を申し上げた

問20 次の傍線部の現代語訳として最も適切なものを、次の中から一つ選べ。

いたうわづらひたまひし御心地の後、いとあつしくなりたまひて、そこはかとなく悩みわたりたまふこと久しくなりぬ。

ア　いつのまにか　　イ　どこということもなく
ウ　とりとめもなく　　エ　はかなそうに
オ　不安そうに

問21 次の傍線部の意味として最も適当なものを、後の中から選べ。

「さはれ、『来たるべからず』とはのたまひしかども、詣でむ」と思ひて、出で立ちて行く…

ア　どうなっているのだろう　　イ　ああ待ち遠しいことよ
ウ　もうどうなってもよい　　エ　もっともなことなので
オ　やはりよく考えると

問22　次の傍線部の意味として最も適当なものを、後の中から選べ。

されば善空坊（ぜんくうばう）といへる道心者をかたらひ、布施（ふせ）とらせつ、ひと夜念仏してかれが菩提をとぶらひ侍りぬ。

注　かれ…ここでは「狸」のこと。

ア　借り出して　　イ　頼み込んで　　ウ　だまして

エ　装って　　オ　協力して

問23　次の傍線部の単語の意味を書け。

いまはむかし、男二人して女一人をよばひけり。

問24　次の傍線部を現代語訳せよ。

「多くの人の身をいたづらになしてあはざなるかぐや姫は、いかばかりの女ぞと、まかりて、見て参れ。」とのたまふ。

問25　次の傍線部「ちぎりたりける」の説明として最も適切なものを、後の中から一つ選べ。

むかし、男、かたゐなかにすみけり。男、宮仕へしにとて、別れ惜しみてゆきにけるままに、三年(みとせ)来ざりければ、待ちわびたりけるに、いとねむごろにいひける人に、「今宵あはむ」とちぎりたりけるに、この男来たりけり。「この戸あけたまへ」とたたきけれど、あけで、歌をなむよみていだしたりける。

あらたまのとしの三年を待ちわびてただ今宵こそ(注)新枕(にひまくら)すれ

（注）新枕…夫婦が初めて契りを結ぶこと。

ア　逢わないことを誓った　　イ　逢いたいと嘘をついた
ウ　結婚の約束をした　　エ　養子縁組をすることにした
オ　運命だと受け入れた

問26　次の傍線部Ａ・Ｂを現代語訳せよ。

下野の国に男女(をとこをんな)Ａ住みわたりけり。年ごろ住みけるほどに、男、妻(め)まうけて、心変りはてて、この家にありける物どもを、Ｂ今の妻のがり、かき払ひ持て運びいく。

問27　次の傍線部の解釈として、最も適当なものを後の中から選べ。

帥殿(そちどの)は今年となりては、いとど御心地重(おも)りて、今日や今日やと見えさせたまふ。御心地いみじうならせたまへば、この姫君二所、蔵人少将とを並(な)め据ゑて、北の方に聞えたまふ。

ア　ご病気が快復なさったので
イ　ご気分がさわやかになられたので
ウ　ご心境が急変なさったので
エ　ご体調が深刻になられたので

問28　次の傍線部は、具体的にどのようなことか、漢字二文字で答えよ。

絶え間がちになりける比、例ならぬ事おはしまして、久しうなりて、よろしくなり給ひて、

問29　次の傍線部の意味として、最も適当なものを後の中から選べ。

いと重くわづらふと聞けど、常にかよわき人にもあらねば、ほどなくおこたらむ折にこそと思ひてうち過ぎぬるほど、にはかによわくなりてつひにみまかりぬ。

ア　暇になったころ
イ　怒りが薄れたころ
ウ　病が回復したころ
エ　しばらくたったころ

問30 次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

（源氏の大殿の）北の方、一所（ひとところ）は按察使の大納言の女（むすめ）、そこに男二人ものし給ふ。帥の宮の御女（むすめ）の腹には、女二人おはしけり。形見どもをうらやみなくとどめおきて、①競（きほ）ひかくれ給ひにし後、世を憂きものに懲りはてて、いと広くおもしろき宮にひとり住みにて、男・女・君だちをも、みな一つに迎へ寄せて、世のつねに②おぼしうつろふ御心も絶えて、一人の御羽（はね）の下に四所（よところ）を育み奉り給ひつつ、…（以下略）

問❶ 傍線部①の現代語訳として最も適当なものを、次の中から一つ選べ。

ア　争うようにして、子供たちがお亡くなりになってしまった
イ　争うようにして、子供たちを人目につかないようにお匿（かくま）いになった
ウ　争うようにして、お二人の北の方がお亡くなりになってしまった
エ　争うようにして、お二人の北の方が出家なさった
オ　お二人の北の方は、子供たちをこっそりと競争させなさった

問❷ 傍線部②の現代語訳として最も適当なものを、次の中から一つ選べ。

ア　出家するようなお気持ち
イ　別の御殿に移り住むようなお気持ち
ウ　子供たちを寵愛するお気持ち
エ　北の方お二人を愛するお気持ち
オ　後妻を迎えるようなお気持ち

問31 傍線部の意味として最も適当なものを、後の中ら選べ。

宇治の皇子、所詮我世にあればこそとて、むなしくならせ給ふ間、王仁（わに）といへる者、この歌を詠みて、…

ア　やはり自分こそ帝位につきたかったと考え、空虚な気持ちになられた
イ　つまり自身が生きているからいけないのだと、死んでおしまいになった
ウ　考えてみれば皇子に産まれたことが間違いだったと、固く辞退をなさった
エ　結果的に私は出世を考えたことがあると反省し、失踪しておしまいになった

問32 次の文章は、父・八の宮を亡くした姫宮（大君）と中の宮（中の君）が、宇治の地で女房（弁の尼）たちとわびしく過ごすところに、薫が慰問する場面である。これを読んで後の問いに答えよ。

御服（ぶく）[注]などはてて、脱（ぬ）ぎ捨（す）てたまへるにつけても、<u>片時もおくれたてまつらむものと思はざりしを</u>、はかなく過ぎにける月日のほどを思すに、…

注 御服…八の宮が亡くなった後、姫宮と中の宮が喪に服す期間のこと。

問 傍線部の解釈として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア 一瞬でも八の宮亡き後まで生き残っていられるだろうとは思わなかったのに
イ いつまでも八の宮のおそばにいられるだろうとは思わなかったのに
ウ 近いうちに八の宮と別れて結婚できるだろうとは思わなかったのに
エ 時がたてばすべてを忘れて生きていけるだろうとは思わなかったのに
オ いつかは幸せな日を迎えることができるだろうとは思わなかったのに

問33　次の傍線部の意味として最も適当なものを後の中から一つ選べ。

「あやし」など、おのがどち集まりて、

ア　怖れながら　　イ　三々五々　　ウ　自発的に

エ　仲間同士で　　オ　密やかに

問34　「内君に託して、うらなくとどめ給ふ。」の傍線部の意味は何か。最適なものを次の中から選べ。

ア　仕方なく　　イ　すすりないて　　ウ　哀れんで

エ　疑ったりすることなく　　オ　こっそりと

問35　「日夜のわいだめなく、まつはし給ひしとぞ。」の傍線部の意味は何か。最適なものを次の中から選べ。

ア　約束なく　　イ　分別なく　　ウ　変更なく

エ　休憩なく　　オ　区別なく

★「男女が深い仲になる（結婚する）」の言い換え単語

かたらふ【語らふ】
みゆ【見ゆ】
みる【見る】
あふ【逢ふ】
すむ【住む】
ちぎる【契る】
ちぎりをむすぶ【契りを結ぶ】　注釈やリード文にあるときもある
＊浅からぬ契り
そでをむすぶ【袖を結ぶ】↕そでをたつ【袖を断つ】

かたらふ【語らふ】

❶語り合う
❷親しくつきあう
❸男女が言い交わす
❹（説得して）仲間に誘い入れる

みゆ【見ゆ】

❶目に映る・見える
❷思われる・感じられる
❸（人に）見られる
❹会う
❺（女が）結婚する

みる【見る】
❶目にする
❷見て判断する・理解する
❸経験する
❹会う
❺深い仲になる・夫婦となる・妻とする
❻世話をする

あふ【逢ふ】
❶出会う
❷結婚する

すむ【住む】
❶居住する
❷夫として女のもとに通う・結婚生活をいとなむ

ちぎる【契る】
❶約束する
❷夫婦の関係を結ぶ

〈恋愛のお作法〉

「垣間見(かいまみ)」
←「手紙（和歌）を送る」　＊懸想文(けさうぶみ)
←「返事（返歌）が来る」
←「文通スタート」＝交際開始
←「逢う」
←「三日連続通う」＝結婚成立　＊後朝(きぬぎぬ)の文(ふみ)
←「所顕(ところあらは)し（露顕し）」
←「通ひ婚」＝「男」⬇「女」

〈その他の恋愛系単語〉
・かよふ【通ふ】
・～のがり ＝～のもとへ
・さるべきにや（ありけむ）＝そうなる宿縁だったのであろうか

★「病気になる」の言い換え単語

わづらふ【煩う】
なやむ【悩む】
いたつく【病く・労く】
いたはる【労る】
れいならず【例ならず】
＊心地例ならず

わづらふ【煩う】
❶苦しむ・悩む
❷病気になる

なやむ【悩む】
❶病気になる
❷困る
❸うるさく非難する

いたつく【病く・労く】
❶病気になる
❷骨を折る・尽力する

いたはる【労る】
❶病気になる
❷骨を折る・尽力する

れいならず【例ならず】
❶いつもと違っている
❷病気である
（❸妊娠する）

＊ここち【心地】
❶気持ち
❷考え・思慮
❸様子
❹病気

〈その他の病気系の単語〉

・あつし【篤し】
❶病気が重い・危篤の状態
❷病気がちである

・おこたる【怠る】
❶なまける
❷病気がよくなる

・ひま【隙・暇】
❶すきま
❷絶え間
❸余暇
❹機会
❺仲たがい
❻休暇
（★小康状態）

・よのなかさわがし【世の中騒がし】＝疫病

・よのなかごこち【世の中心地】＝疫病

〈病気の原因〉

「**物の怪**（もののけ）」…死霊・生霊

〈治療法〉

「**加持祈祷**（かじきとう）」…災難を払ったり、物の怪を調伏（ちょうぶく）（＝霊を払い清めること）するためのお祈りや儀式。

★「死ぬ」の言い換え単語

うす【失す】
きゆ【消ゆ】
はつ【果つ】
かくる【隠る】
みまかる【身罷る】
あさましくなる
いかにもなる【如何にも成る】
はかなくなる【果敢無くなる】
むなしくなる【空しく成る】
いたづらになる【徒らに成る】
いふかひなくなる【言ふ甲斐無くなる】
かひなくなる【甲斐無くなる】
ともかくもなる
いぬ【去ぬ・往ぬ】
くもがくる【雲隠る】
けぶりとなる【煙となる】
こときる【事切る】
ひきいる【引き入る】

うす【失す】
❶（い）なくなる・消え去る
❷死ぬ

きゆ【消ゆ】
❶消える
❷意識がなくなる
❸死ぬ

はつ【果つ】
❶終わる
❷死ぬ

かくる【隠る】
❶隠れる
❷死ぬ

あさましくなる
❶驚きあきれる状態になる
❷死ぬ

いたづらになる【徒らに成る】

❶むだになる
❷死ぬ

ともかくもなる

❶どうなるかわからないが、ある結果になる
❷死ぬ

いぬ【往ぬ・去ぬ】

❶去る
❷過ぎ去る
❸死ぬ

くもがくる【雲隠る】

❶雲に隠れる
❷（貴人が）死ぬ

こときる【事切る】

❶死ぬ
❷決着がつく

ひきいる【引き入る】

❶引っ込む
❷隠遁する
❸控え目にする
❹死ぬ

〈その他〉

・**さらぬわかれ【避らぬ別れ】**＝死別

【第三講】

〔模範解答〕

問1 a ア b ウ 問2 ウ 問3 オ 問4 エ 問5 ア
問6 a ウ b イ 問7 ア 問8 エ 問9 世間でたぐいなく評判が高くて
問10 ア 問11 エ 問12 イ 問13 a エ b オ c ウ
問14 ア 問15 オ 問16 エ 問17 体裁が悪いので 問18 イ 問19 イ
問20 イ 問21 ウ 問22 イ 問23 求婚する 問24 結婚しないという
問25 ウ 問26 a 夫婦として暮らしてきた b 今の妻のもとへ 問27 エ
問28 病気 問29 ウ 問30 ❶ ウ ❷ オ 問31 イ 問32 ア
問33 エ 問34 エ 問35 オ